

かけはし

一小だより

No.13 23・10・27

そうだ。読書しよう。

校長 大村 亨 夫

10月22日、第一小学校の学習発表会である「一っ子フェスティバル」が無事終了しました。保護者のみなさまには多数ご参加いただき、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。《174名がみんなで協力し、最高の思い出をつくりあげよう。》を合言葉にして、各学年が特色を出しながらがんばった発表会でした。

学芸会ではなく、学習発表会として位置付けていますので、国語や音楽、体育などの教科や、総合的な学習で日頃取り組んでいる内容を発表しています。体育館という広い空間、そして、大勢の観客を前にしますので、構成や伝え方に工夫が必要です。発表会をめざして、大きな動きや張りのある声の出し方を練習してきました。また、協力しながら、作品を創ってきた子ども達にとって、力を合わせる大切さを学んだ毎日だったように思います。

今回のおたよりは、6年生が発表した「走れメロス」を観た後思い出したことを書いてみます。

まず、蛇足ながら「走れメロス」のあらすじをなぞってみます。＜残忍な暴君ディオニス王に捕えられたメロスは、親友セリヌンティウスを人質としておくことを条件に、3日間の死刑猶予を得ます。そして、妹の結婚式に出た後、必ず戻ってくることを約束します。メロスは走ります。自分を信じて疑わない親友のために。走って走って、戻ってくるのです。＞

太宰は、ギリシャ神話をもとに創作したのが「走れメロス」だと言っています。しかし、

太宰の親友檀一雄（女優檀ふみの父）は、「走れメロス」誕生秘話として、こんなことを明かしているのです。

＜熱海の旅館に行ったまま帰ってこない太宰を心配した奥さんは、檀にお金を持たせて、連れ帰るように頼みます。しかし、迎えに来た檀を太宰は大歓迎し、二人は連日飲み明かします。預かった金はすっかり無くなってしまふのです。困った太宰は、旅館に檀一雄を人質として残し、師匠である大作家、井伏鱒二のもとへ金を借りに出かけます。檀は太宰を待ちます。けれど・・・何日たっても戻らない太宰に痺れを切らした檀が、井伏鱒二の家に行ってみると、二人は呑気に将棋を指していた＞と。・・・作家は不思議ですね。

創作の発端になった真相は謎です。もしかして、いい加減な自分を反省した太宰は、その心情を「走れメロス」に託して檀一雄に届けたかったのかも知れません。「恥の多い」39年の生涯と言われている太宰治。しかし、時代を超えて若者に愛され続ける太宰の魅力は、数々の作品の中で輝いています。

第一小学校では、読書に親しむために、木曜日の朝は全校読書にしています。また、11月21日からは読書祭週間になります。家庭でも、本のページをめくる子ども達の姿がみられるとうれしいですね。私は、もう一度、太宰で。



全校合唱 「ぼくのハーモニー」

平成23年度 一っ子フェスティバル

10月22日(土)、「174人みんなで協力し、最高の思い出をつくりあげよう。」のテーマのもと「一っ子フェスティバル」が開催されました。それぞれの学年が、持ち味を發揮しすばらしい発表会となりました。大変お忙しい中、多くの保護者・地域の皆様においでいただき、たいへんありがとうございました。オープニングセレモニー(トランペット鼓隊発表)



新曲「世界で一つだけの花」を発表

4年 総合的な学習発表 「飯豊大好き」



3年 劇 「びっくりタイムスリップ」



1年 群読 「あいうえおうさま」



2年 音楽表現 「なかよしリズム」



5年 器械運動・体操「マッスルランド」



6年 劇 「走れメロス」



